

## 「幸せ」の一字

毎年恒例の漢字一文字、平成21年は「新」でした。

1年を振り返っての漢字も結構ですが、太田東西は先を読んで、健康で幸せになるための漢字一文字を、年頭に発表いたします。

それは

「安」

です。

安売りの「安」じゃありませんよ（笑）。

「安心」の「安」です。

他には「安全」「安定」「安穩」「安泰」、そうそう「安産」もありました。

やすらかに、おだやかに、無事に。

「安」には、癒しの用語が多いですね。

ところで「安心」は「あんじん」と読む仏教用語です。

辞書には

「信仰により心を一所にとどめて不動であること」とあります。

さらには「安心立命（あんじんりつめい）」。

心を安らかにし、身を天にまかせ、どんな場合にも動じないこと。

これ、理想の生き方ですね。

太田東西が健康長寿に「宗教観」が必要だと考えるのはこの「安心」が欠かせないと気付いたからです。

この「安」という字。  
よく見ますと、「女」という字があります。

その上に「宀(うかんむり)」がある。

「安」は、屋根(宀)の下に「女」が鎮座しているイメージです。

そう言えば、妻を「家内」とも呼びますね。

さて、太田東西がバリバリの男尊女卑ではないことをお断りして...

## 安 宀 女

「安」の瓦解(がかい)、「宀から女が離れた」状態、つまり女性(母親)不在の家に「安心」は得がたいと感じます。

「共働き」。

今では当たり前のライフスタイルです。

男女雇用機会均等法により女性が社会で活躍できるようになったのは良いことですが、男性と同じ負荷(ストレス)が女性にもかかっています。

長時間拘束、人間関係、成果主義による重責。

心身ともに疲れた女性が増加している一因です。

「だから女性は家に居るべき！」という専業主婦推進論ではありません。

看護師、客室乗務員、すべて「男」だったら...。ぞっとします。

女性にしかできない、女性でなければ務まらない仕事は多々あります。

女性が外で仕事をしながら、どう家庭に「安」を築いていくか？

この問題に向き合い、努力する家庭はきっと「幸せ」になれるでしょう。

一方、「安」の瓦解は、子供の心身に現れます。

不登校、非行、いじめ、腹痛、うつ、ぜんそく、アトピー性皮膚炎...など。

「安」がない、「不安」が子供に影響するからです。

## 「安」の空気を産み出しましょう！

太田東西かわら版愛読者の多くは、仕事と家庭の両立に頑張っている女性です。子供の帰りを家で待ってあげたくても、現実、働かなければ生活できない…。家庭に「安」を作り出すことは、時間的になかなか至難です。しかし子供に「安」を感じさせることはできます。

例えば私の妻ですが、夜不在する時は、夕飯のほかにテーブルに茶碗・箸・コップをきちんと配膳し「おかえり～ お疲れさま～～ \ (^ ^ ) /」こんなメモ書きを残しています。今、そこに母親はいませんが、帰宅した子供に「安」を感じさせます。

私の両親も共働きでした。母は看護師として頑張ってきた女性です。最近その母から聞いた話です。

シンシンと雪が降り積もるある夜のこと。その日、母は深夜勤務。夜十時過ぎの出勤。外は一面雪景色。玄関を開けて出ようとする

「お母さん、行かないで…」

そう言って、母のコートを握りしめる小学生の子供。

「ごめんね、お母さんどうしても仕事に行かなければいけないの…」

そう言って、母は涙ながらに家を後にした。

その子供、何を隠そう、私、太田東西だったのです！

きつこうした寂しさを子供心に経験したからこそ、「母性」と「女性」を応援する、今の太田東西のスタイルが確立したのでしょう。

この話、皆さんの家庭とところに「安」を産み出す、漢方相談の起源かもね…(><恥)